

臨床検査学教育における国際交流の実践 — 東京科学大学における学生派遣・受入れの取り組み —

副 島 友莉恵*[§] 鈴木 喜 晴* 松 沢 優*
太 田 悠 介* 吉 本 明* 大 川 龍之介*

I. はじめに

医療の国際化や国際共同研究の進展に伴い、臨床検査技師にも、国際的な視野、異文化への理解、英語によるコミュニケーション能力がこれまで以上に求められている。このような資質を養うためには、海外の医療・教育・研究環境を実際に体験し、多様な文化的背景を持つ学生や研究者と交流する機会を提供することが重要である。

東京科学大学は、2024年10月に東京医科歯科大学と東京工業大学の統合により誕生した。2026年1月には、世界最高水準の研究大学の実現を目指す「国際卓越研究大学」に認定され、現在、350を超える海外の大学・研究機関と国際交流協定を締結している。これらの協定を基盤として、学生、教職員、研究者による教育・研究・人材育成に関する多層的かつ実質的な国際交流を推進し、科学技術の発展と国際社会に貢献する人材の育成を目指している。

医学部では、日本のみならず国際社会で活躍できる医師、看護師、臨床検査技師などの高度医療専門職に加え、基礎医学、臨床医学、公衆衛生学、医療政策など、幅広い分野で活躍する研究者・教育者の育成に取り組んでいる。また、保健衛生学科検査技術学専攻では、豊かな国際性を備えた臨

床検査技師の育成を目標に掲げ、学生が在学中に海外で学ぶ機会を積極的に提供している。その一環として、学部1～4年生を対象とした自由選択科目「短期海外研修」を開講している。

本科目では、海外の医療機関や教育・研究機関における見学、講義、実習などを通じて、各国の医療制度や臨床検査の実際と課題を多面的に学ぶ。これらの経験を通して、臨床検査技師として必要な専門性と国際的視野を養うことを目指している。

本稿では、本専攻がこれまで取り組んできた国際交流活動の概要と、その教育的意義について紹介する。

II. これまでの国際交流のあゆみ

検査技術学専攻では、2014年以降、タイのチュラロンコーン大学、台湾の台北医学大学、ラオスのラオス保健科学大学、ガーナのガーナ大学との学術協定に基づき、継続的に短期学生派遣プログラムを実施している。2025年度までに、累計60名の学生を派遣した。

派遣は夏期(8月)および春期(3月)の年2回を基本としている。派遣学生については、英語力、学業成績、志望動機および面接結果を総合的に評価し、選考している。派遣に際しては、独立行政

* 東京科学大学大学院医歯学総合研究科 [§]soejima.y.3005@m.isct.ac.jp

法人日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度、医学部学生海外研修奨励賞、大学基金による支援などを活用し、学生の経済的負担の軽減に努めている。

さらに、海外研修への参加に先立ち、全学科の学生を対象とした英語模擬交渉ワークショップ「Global Communication Workshop」の受講を必須としている。本ワークショップでは、国際保健に関する事例を題材として、英語による討論や交渉を行い、論理的思考力、コミュニケーション能力、異文化理解およびグローバルな視点を養っている。交流内容は派遣先によって異なるが、施設見学に加え、研究室での実習やラボワークへの参加を通じて、現地の学生・教員との交流を深め、将来の国際共同研究につながる人的ネットワークの構築を目指している。また、大学院生については、研究活動をより重視した内容とするなど、教育段階に応じた研修プログラムを実施している。

タイのチュラロンコーン大学および台湾の台北医学大学とは、学生の相互交流を継続しており、海外学生の受入れに際しては、3大学合同による国際交流プログラムを実施している。2026年7月までに、累計96名の学生を受け入れてきた。

III. 学生派遣の実際

派遣に先立ち、事前学習として派遣先の文化や医療体制について学ぶとともに、日本の文化や医療を紹介するためのプレゼンテーションを準備している。これにより、現地での交流をより充実させ、異文化への理解を深めることを目指している。また、安全管理の一環として、海外渡航時の注意事項や危機管理について説明する渡航前オリエンテーションを実施している。派遣後には、全学年の学生を対象とした研修報告会を開催し、現地で得た経験や学びを共有している。これにより、派遣成果を専攻全体に還元し、学生の国際意識を高める機会としている。以下に、2025年度に実施した海外研修プログラムの概要と、それぞれの特徴を紹介する。

1. チュラロンコーン大学(タイ)

実施期間 2025年8月6日～16日

派遣人数 5名(学部2年生2名、学部4年生1名、大学院修士課程1年生2名)

引率教員 1名(大川)

研修目的

急速に発展する東南アジアにおける臨床検査室の運営体制、臨床検査技師養成制度および臨床検査医学分野の研究について学ぶ。さらに、現地学生との交流を通じて国際的な視野を養い、臨床検査分野における実践力と研究力を備えた人材を育成することを目的とする。

研修内容

- 保健衛生学部における英語による講義・実習への参加
- 臨床検査学の各専門分野の研究室における研究活動やラボワークの体験
- バンコク市内の医療機関の訪問と、タイの医療制度および臨床検査体制の見学
- 東京科学大学、日本の医学・医療および日本文化に関する紹介と、現地学生とのディスカッション・交流

本プログラムの特徴は、講義や施設見学に加え、研究室でのラボワークに参加できる点にある。現地学生とともに実験やディスカッションを行うことで、臨床検査学に関する知識や技術を学ぶだけでなく、異文化への理解や国際的なコミュニケーション能力を高める機会となっている(写真1)。

2. ラオス保健科学大学(ラオス)

実施期間 2025年8月11日～21日

派遣人数 5名(学部3年生2名、学部4年生2名、大学院修士課程1年生1名)



写真1 チュラロンコーン大学でのラボワーク

引率教員 1名(副島)

研修目的

ラオスは東南アジアに位置する後発開発途上国(LDC)の一つであり、近年、急速な経済発展を遂げている。一方、保健・医療部門では、人材育成や医療体制の整備が依然として課題となっている。本研修では、ラオス保健科学大学の学生との交流、首都ビエンチャンの医療機関の見学、国際医療協力および共同研究への参加を通じて、日本とラオスの保健医療体制、文化、社会背景の共通点と相違点について理解を深め、国際保健および国際協力の意義を学ぶことを目的とする。

研修内容

- ・ラオス保健科学大学医療技術学部の見学と、学生交流および教育・研究セミナーへの参加
- ・ビエンチャン市内の主要医療機関(セタティラート病院、マホソット病院、ミタパーブ病院など)の見学と、医療提供体制および臨床検査部門の見学
- ・ラオス保健科学大学医学部病理学教室における共同研究活動への参加
- ・JICA ラオス事務所および関連プロジェクトの見学と、日本の国際医療協力に関する学習

本プログラムの特徴は、施設見学や学生交流に加え、ラオス保健科学大学医学部病理学教室において、実際の研究活動や共同研究に参加できる点にある(写真2)。さらに、JICAによる国際医療協力事業を学ぶ機会を設けることで、臨床検査技師に求められる専門性に加え、国際保健や医療協力に関する視点を養うことを重視している。



写真2 ラオス保健科学大学病理学教室での協力活動

3. ガーナ大学(ガーナ)

実施期間 2026年3月4日～15日

派遣人数 3名(学部2年生2名、学部3年生1名)

引率教員 1名(太田)

研修目的

ガーナの保健医療や公衆衛生の現状を学び、日本を含む先進国との共通点や相違点を理解することで、既存の価値観や基準にとらわれない、柔軟かつ国際的な視点を養うことを目的とする。また、現地の学生や研究者との交流を通じて相互理解を深め、多様な価値観を尊重しながら協働する能力を育成する。

研修内容

- ・ガーナ大学野口記念医学研究所の見学と、感染症・公衆衛生分野を中心とした研究活動および研究施設の見学
- ・アクラ市内の病院および検査センターの見学と、医療提供体制および臨床検査の現状に関する学習
- ・JICA ガーナ事務所および関連プロジェクトの見学と、日本の国際保健医療協力に関する学習
- ・ガーナ大学の大学院生や研究者との交流および文化・研究活動に関する意見交換

本プログラムでは、国立研究開発法人・日本医療研究開発機構(AMED)、感染症国際研究拠点連携プログラム(J-GRID+)、T.E.N. Ghana MV25 B.V.社の支援のもと設置された東京科学大学ガーナ拠点を活用し、アフリカ地域の医療・公衆衛生や感染症研究の最前線に触れることができる(写真3)。医療資源や社会背景が日本とは大きく異なる環境を



写真3 ガーナ・アクラのシャイ・ヒルズ資源保護区

実際に体験することで、医療や臨床検査を多角的に捉える視点を養うとともに、国際保健分野への理解を深める機会となっている。

4. 台北医学大学（台湾）

実施期間 2026年3月16日～25日

派遣人数 6名(学部2年生2名、学部3年生4名)

引率教員 1名(鈴木)

研修目的

台湾の医療体制や文化的背景について学ぶとともに、海外の医療現場や教育環境を体験することで、グローバルな視野を持つ学生を育成することを目的とする。また、国際的な視点から日本の医療を捉え直し、自身の将来のキャリアについて考える機会とする。

研修内容

- 台北医学大学および附属病院などの関連医療機関の訪問と、医療・臨床検査体制に関する学習
- 英語による講義や実習などの研修プログラムへの参加(写真4)。
- 日本文化、東京科学大学および日本の医学・医療に関する紹介と、現地学生との文化・医療に関する意見交換

以上のように、本専攻では派遣先ごとに異なる教育目標を設定している。最先端の臨床検査教育や研究に触れる研修、国際保健・医療協力を学ぶ研修、多様な医療制度や文化を体験する研修など、それぞれの特色を生かしたプログラムを実施している。これらを通じて、学生が多角的な視点から医療や臨床検査について考え、国際社会で活躍で

きる資質を養うことを目指している。

IV. 海外学生受入れの実際

本専攻では、学生を海外へ派遣するだけでなく、タイのチュラロンコーン大学および台湾の台北医学大学から学生を受け入れ、3大学合同による国際交流プログラムを実施している。異なる国や文化的背景を持つ学生が共に学び、交流することを通じて、参加学生の国際性や異文化への理解を深めることを目的としている。以下に、2026年6月16日～25日に実施した受入れ交流プログラムを紹介する。

受入れ人数

チュラロンコーン大学4名(学部3年生)

台北医学大学6名(学部3年生4名、大学院修士課程1年生2名)

引率教員は各大学1名

本プログラムには、本専攻の学部2年生に加え、研究室に所属する卒業研究生(学部4年生)や大学院生など、多くの学生が参加し、専攻全体で海外学生を受け入れ、交流する体制を構築している。主なプログラムは以下のとおりである。

- 各研究室における研究活動への参加
- 東京科学大学病院および学内施設(検査部、輸血・細胞治療センター、病理部、疾患バイオリソースセンター)の見学
- 学生による文化紹介やプレゼンテーションを含む交流会(写真5)
- 3大学合同国際研究シンポジウムの開催
- 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センターの見学
- ウェルカムパーティーおよびフェアウェルパーティー(写真6)

海外学生と日本人学生が研究活動や文化交流を共に行うことは、英語によるコミュニケーション能力や異文化理解を深めるだけでなく、将来の国際共同研究や人的ネットワークの構築にもつながる機会となっている。

本プログラムの運営は、本専攻の国際教育・研究委員会が中心となって行なったが、ウェルカムパーティーおよびフェアウェルパーティー、各研



写真4 台北医学大学での病原体検査学実習

研究室でのラボワーク、施設見学などについては、多くの専攻教員の協力のもと実施し、専攻全体で海外学生を受け入れる体制を整えた。また、東京科学大学病院では、検査部、輸血・細胞治療センター、病理部などの各部署と連携し、それぞれの担当者による説明や見学を実施した。このように、専攻と大学病院が連携することにより、教育・研究・臨床を幅広く体験できるプログラムを実現した。

V. 国際交流の教育的効果と今後の展望

本専攻では、学生の海外派遣と海外学生の受入れを継続的に実施することにより、学生が異なる文化や医療・教育・研究環境に触れ、国際的な視野を養う機会を提供してきた。派遣プログラムでは、海外の臨床検査教育や医療現場を体験するだけでなく、現地の学生や教員との交流を通して、自らの考えを英語で発信し、多様な価値観を理解する力を身につけることが期待される。一方、海外学生の受入れプログラムは、日本人学生が国内にいながら英語で交流し、海外学生と共に学ぶことのできる貴重な機会となっており、異文化理解やコミュニケーション能力の向上につながっている。

また、本専攻では、学部2年生から卒業研究生、大学院生まで、幅広い教育段階の学生が国際交流に参加できる体制を整えてきた。学年や教育段階に応じてプログラム内容を工夫することにより、臨床検査学に関する専門性に加え、研究力や国際共同研究への理解を深める教育にもつながっている。さらに、専攻教員に加え、大学病院や学内外

の関係部署と連携してプログラムを運営することで、教育・研究・臨床が一体となった国際交流を実現している。

今後、臨床検査技師には、高度化する医療技術への対応に加え、国際共同研究や国際医療協力など、グローバルな視点を持って活躍することが一層求められる。本専攻では、今後も海外大学との連携を発展させるとともに、共同研究や学生交流のさらなる充実を図り、国際社会で活躍できる臨床検査技師および研究者の育成に取り組んでいきたい。

謝辞

本稿で紹介した東京科学大学検査技術学専攻の国際交流プログラムの実施にあたり、ご協力・ご支援を賜りましたチュラロンコーン大学、台北医学大学、ラオス保健科学大学、ガーナ大学および東京科学大学ガーナ拠点の関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。また、日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センターの皆様をはじめ、東京科学大学病院検査部、輸血・細胞治療センター、病理部、東京科学大学疾患バイオリソースセンター、国際教育課湯島海外留学グループおよび湯島海外交流グループ、ならびに検査技術学専攻教員の皆様の多大なるご協力に、心より感謝申し上げます。

COI 状態

投稿原稿に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。



写真5 本専攻2年生と、チュラロンコーン大学および台北医学大学の学生によるグループディスカッション



写真6 海外学生受入れプログラムにおけるウェルカムパーティーでの集合写真